

## 「OPEN SITE 7」企画決定！

# OPEN SITE

あらゆる表現活動が集まるプラットフォームの構築を目指し、2016年より始まったトーキョーアーツアンドスペース（TOKAS）の企画公募プログラム「OPEN SITE」の2022年度実施企画が決定しました。

2022年2月から3月にかけて実施した公募では135企画が集まり、書類審査と面接審査を経て展示部門5企画、パフォーマンス部門2企画、dot部門2企画を選出しました。さらにTOKAS推奨プログラムと普及プログラムを加えた全11企画を、2022年10月から2023年1月まで2会期にわたり開催します。時代性に即した視点で、これまでにない表現を探求する創造的な企画にご期待ください！

## ■ 開催概要 ※新型コロナウイルスの感染状況によって、実施内容が変更となる場合があります。

プログラム名： OPEN SITE 7  
実施期間： Part 1 2022年10月22日（土）～2022年11月27日（日）  
Part 2 2022年12月10日（土）～2023年1月22日（日）  
会場： トーキョーアーツアンドスペース本郷（東京都文京区本郷2-4-16）  
休館日： 月曜日（ただし1月9日は開館）、1月10日、  
年未年始（2022年12月29日～2023年1月3日）  
主催： 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 トーキョーアーツアンドスペース  
ウェブサイト： [www.tokyoartsandspace.jp/](http://www.tokyoartsandspace.jp/)

## ■ 募集概要 ※今年度は新型コロナウイルスの感染拡大を受け、応募対象を日本国内在住者に限定しました。

募集期間： 2022年2月25日（金）～3月23日（水）  
応募総数： 135企画  
審査員： 小林晴夫（blanClass ディレクター）  
畠中実（NTTインターコミュニケーション・センター[ICC] 主任学芸員）  
平倉圭（横浜国立大学准教授 | 芸術学）  
近藤由紀（トーキョーアーツアンドスペース プログラムディレクター）

### < お問い合わせ >

〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1 東京都現代美術館内  
トーキョーアーツアンドスペース（公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館）  
広報担当：市川、武智  
TEL：03-5245-1142 FAX：03-5245-1154 E-mail：press@tokyoartsandspace.jp

## ■ 実施企画

- ◆「OPEN SITE 7」では、企画の内容に合わせて3部門の実施形態を設定しています。
- ◆各企画のタイトル等詳細は変更となる場合があります。

### 【展示部門】

開館時間 11:00 - 19:00。入場無料。

各会期初日には公募審査員をゲストに迎え、オープニング・トークを実施します。

Part 1   2022年10月22日(土)～11月27日(日)	
企画者	菅 実花
企画名	「鏡の国」
概要	演劇などで使用される視覚トリックや非反転鏡といった19世紀の光学装置と現代の技術を組み合わせることにより、展示室内に鑑賞者の「分身」を出現させ、SNSやオンライン会議の普及によってアバター化する現代の自己認識の表出を試みる。
企画者	米澤 柊
企画名	「名無しの肢体(仮)」
概要	デジタルアニメーションの作画において、動きをスムーズに見せるための「中割り」として描かれる、形が不明瞭なキャラクターの身体を展示し、キャラクター性を持たないデジタル上の身体について考察する。
Part 1   2022年10月22日(土)～11月10日(木)	
企画者	EoN   Excitation of Narratives (伊阪柊+竹内均+玄宇民)
企画名	「話法の生成－エッセイフィルムの立地－」
出展者	伊阪 柊、竹内 均、玄 宇民
概要	文学におけるエッセイの在り方を援用した話法であるエッセイフィルムについて、その研究成果を発表するほか、現代のエッセイフィルムの状況に呼応した3名のアーティストによる映像作品を上映し、新たな話法の可能性を探究する。
Part 2   2022年12月10日(土)～2023年1月22日(日)	
企画者	スピネット・アグスティン、ラウス・ルイーズ
企画名	「Sounds from Liminal Towns」
概要	日本の郊外に住む高齢の外国人女性と協働し、環境や国境を越えた記憶をフィールドレコーディングやオーラルヒストリーとして収集。個々の物語をもとに版画作品を制作し、没入感のあるサウンドスケープを展開する。
企画者	小林 椋
企画名	「亀はニェフスのイウユのように前足を石にのぼすと」
概要	SF小説などに登場する、見慣れない動きをものの運動として表現する「例え話」をモチーフにキネティックな作品を制作する。文章の中で具体的なものに置き換えられた表現を、単なる動きとして抽出し直し、新たな認識の可能性を提示する。

## 【パフォーマンス部門】

会期中、特定の日時に開催します。鑑賞には事前予約と入場料が必要です。

実施日程や入場料金、予約方法等の詳細は、後日 TOKAS のウェブサイトおよびチラシにて発表します。

Part 1   2022 年 11 月 15 日（火）～11 月 20 日（日）	
企画者	前田春日美+豊島彩花
企画名	「やわらかい杖を置く」
出演者	前田春日美、豊島彩花
概要	ダンサーのからだを「自由な身体」として定義し、壁や床などの空間、会場に設置されたロープや什器、もう一人のダンサーにからだの一部を預けることで、自身の意思とは異なる感覚を認識し、拡張された身体性を探る。
Part 2   2023 年 1 月 9 日（月・祝）～1 月 15 日（日）	
企画者	たくみちゃん
企画名	「—(dash)#2 Rosetta Stone」
出演者	たくみちゃん 他
概要	人々が日常の中で行っている言語的コミュニケーションに着目し、抽象的な形の 3D モデリングが文字の形に変化する過程を、身体表現として置き換えたパフォーマンスを上演。コミュニケーションの不可能性を提示するとともに、その可能性を模索する。

## 【dot】

開館時間 11:00 - 19:00。入場無料。

実施日程は後日 TOKAS のウェブサイトおよびチラシにて発表します。

Part 1   2022 年 11 月 22 日（火）～11 月 27 日（日）	
企画者	サトウアヤコ
企画名	「日常記憶地図『“家族”の風景を“共有”する』」
概要	日常の中では語られにくい、“家族”の「場所の記憶」と風景を“共有”する場をつくり、他者や未来の“家族”との記憶の媒体となる「日常記憶地図」を制作する。また、複数の“家族”の「日常記憶地図」の展示やトークを通じて、役割や関係を迂回することの可能性について考える。
Part 2   2022 年 12 月 10 日（土）～12 月 18 日（日）	
企画者	高松 霞
企画名	「連句の赤い糸」
概要	五・七・五と七・七を複数人で連ねていく即時性の高い共同文芸であり、俳句や川柳のもとにもなった連句。本展では、連句作品の展示のほか、ライブイベントやワークショップをとおして、連句という共同詩を多角的に解釈する場をつくる。

## 【TOKAS プログラム】

公募企画に加え、TOKAS 企画によるプログラムを開催します。入場無料。

実施日程は後日 TOKAS のウェブサイトおよびチラシにて発表します。

Part 2   2022 年 12 月 22 日 (木) ~2023 年 1 月 7 日 (土) ※TOKAS 推奨プログラム	
企画者	<b>Ad Mornings</b>
企画名	<b>「Rotation Notation／記憶を記録する(仮)」</b>
出展者	Jang-Chi、大和由佳、土本亜祐美、シェレンバウム・ゾエ、山科晃一、 ユニ・ホン・シャープ、ジョイス・ラム
概要	「コロナ禍の都市と生活」や「移民」をテーマに制作した新聞を展示・発行する。会期中には TOKAS 本郷内での様子を日々記録しながら展示を更新し、新聞を読むパフォーマンスも行う。新聞という古典的マスメディアをとおして、情報の私的領域・公的領域の境界に揺さぶりをかける。
Part 2   2023 年 1 月 21 日 (土) ~1 月 22 日 (日) ※TOKAS 普及プログラム／予約制	
企画者	<b>志村信裕</b>
企画名	<b>「モノと語り」</b>
概要	映像作家の志村信裕とともに、静物画の歴史や志村の映像作品を考察しながら「モノと人の関係」という目には見えないものの表象について探究するワークショップ。参加者自身と美術史との接点、アーティストが作品に込める意図や可視化され難いテーマを考える。